

地震に備える

早朝の関西地方を襲った阪神・淡路大震災から12年がたちました。そして、ことしに入り、3月25日には能登半島地震、7月16日には新潟県中越沖地震の2つの地震が発生し、共に大きな被害をもたらしました。

地震はいつ発生するかわかりません。もし、川越で大きな地震が発生したら……。この企画記事では、被害を最小限にするために必要な、地震への備えについて紹介します。

問い合わせ…防災危機管理課防災担当

TEL内線2241

阪神・淡路大震災で被害を受けた、神戸市灘区の様子

防 災訓練行われる

八月十九日午前八時、東京湾北部を震源とするマグニチュード(M)7.3の直下型地震が発生。市内では震度6強を観測し、家屋の倒壊・道路の損壊などのほか、交通機関や電気・電話・水道・ガス施設にも多くの被害が出ている。火災も各所で起こり、混乱が生じている。市は直ちに災害対策本部を設置し、職員 の動員体制を整えるとともに、各機関の協力を得て、災害応急対策を実施するために

3月25日の能登半島地震で、震度6強の激しい揺れに襲われた輪島市 当時の状況を輪島市の職員に伺いました



地震直後の輪島市内



地震による落石

突き上げるような振動があって、地震だと思った直後、大きな揺れがやってきました。海に近い旧門前町(ことし2月に合併)ではイベントがあり、その準備で外にいた皆さんから、立っていた人が転んでしま

い、立てなくなるくらいの揺れだったと聞いています。建物や電柱がぺらぺらの紙のように揺れ、ギシギシと音を立てて崩れていく建物もありました。同じ市内でも、山側の家は家具などが倒れることはありましたが、建物の倒壊はあまりありませんでした。

市内の約5,500世帯で断水し、復旧まで1、2週間かかりました。ガスはプロパンで影響が少なく、停電は地震の翌日に解消されました。

仮設住宅が建ち、被災した皆さんは、これまでの暮らしと同じとはいえませんが、現在の市民生活は落ち着きを取り戻しています。

活動を開始した。ことしの第二十八回川越市総合防災訓練は、このような想定の下、芳野地区十三自治会の皆さんや関係機関の皆さんを合わせ、九百四十七人が参加して、芳野小学校で行われました。

- 下の写真は防災訓練当日の様子
- ①芳野地区の自警消防隊の皆さんも参加した一斉放水訓練
 - ②三角さんの使い方を知り、これも大事
 - ③建物の中から負傷者を運び出す、消防団と災害ボランティアの皆さん
 - ④水消火器を使った消火訓練。消防士からアドバイスを受けています
 - ⑤毛布と物干しざおを使って、応急担架を作っています

